

第1回 滝沢ダム貯水池斜面対策検討会

議 事 要 旨

日 時；平成20年6月10日（火）15：00～18：30

場 所；独立行政法人水資源機構
荒川ダム総合管理所滝沢ダム管理所2F会議室

出席者；

座 長	中村 浩之	（東京農工大学名誉教授）
委 員	吉田 等	（独立行政法人土木研究所地質監）
〃	綱木 亮介	（財団法人砂防地すべり技術センター斜面保全部長）
〃	山口 嘉一	（独立行政法人土木研究所水工研究グループ上席研究員）
〃	佐々木 靖人	（独立行政法人土木研究所材料地盤研究グループ上席研究員）
オ ブ	安部 友則	（独立行政法人土木研究所水工研究グループ長）
〃	宮原 進	（埼玉県秩父県土整備事務所道路環境部長）

議 事；

1 情報公開

検討会自体は非公開とするが、議事概要及び資料については適宜HP等を活用し情報公開する方法で了解された。

2 貯水池斜面の監視体制、調査計画

①国道140号開口亀裂

- ・地すべり面（位置）、範囲の推定は既存データを再度見直し慎重に見極め設定する。地すべりの挙動と貯水位および地下水位との関係には留意する。
- ・想定すべり面の上端・下端部の特定を含んだ調査計画とする。
- ・監視体制、国道復旧は機構案とする。

②滝ノ沢下流（L-20下流）管理用道路亀裂

- ・現地の状況および既存データ等から地すべり現象であると予想され、対策工は必要と考える。国道保全を第一条件とし、速やかな対応が望ましい。仮設的なものであっても水抜きボーリングは有効。
- ・国道水準測量の観測点をKBM12より下流を追加する。
- ・地質調査等は水位維持をしながら速やかに実施し、すべり面・範囲を特定するとともに、地下水位測定についても検討する。
- ・監視体制は機構案とする。